

平成3年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	家庭系ごみ有料化事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	家庭系ごみのより一層の減量・資源化、ごみ処理にかかる負担の公平化、ごみに責任をもつ社会の実現を目指し、平成16年10月から、定期収集家庭ごみのうち、「燃やせるごみ」「破碎ごみ」について、大(40リットル相当)・中(30リットル相当)・小(20リットル相当)・特小(10リットル相当)の4種類の有料指定収集袋による回収を開始した。また、平成28年10月から、高齢者等ごみ排出量の少ない世帯の利便性の向上を目指し、従来の4種類に5リットル相当の「超特小」を加えて、5種類での運用を開始した。		
3年度概要	この家庭系ごみ有料化事業の実施にあたって、5種類の有料指定収集袋を活用し、その製造、収納事務(スーパーなどの店舗における一般廃棄物処理手数料収納事務)及び配送・在庫管理に関する事務を行う。また、外袋袋に広告を掲載し、特定財源の確保にも努めることとしている。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	

【事業の目的】

対象(何を)	ごみを排出する市内の全家庭
意図(どのような状態にしたいか)	各家庭がごみを排出する際に、有料指定収集袋を購入し、使用してもらう。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
有料指定収集袋作製枚数(特小換算)	枚	47,400,000	44,850,000	41,500,000	43,975,000	43,000,000

【事業の成果】

成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
有料指定収集袋使用枚数(特小換算)	枚	目標値	47,400,000	45,900,000	43,000,000	43,975,000	43,000,000
		実績値	43,877,750	44,741,500	43,273,250		
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							(達成度) 99.4%
34点							
成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)		目標値					
		実績値					
(目標達成度)							(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	平成31年度(予算)
トータルコスト	[円]	194,869	173,187	165,953	206,669
(事業費)	[円]	187,803	166,359	159,147	199,863
(職員人件費)	[円]	7,066	6,828	6,806	6,806

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

平成28年10月から従来の「大」、「中」、「小」、「特小」の4種類に、新たに5リットル相当の「超特小」を加えて、5種類で運用を開始し、高齢者等ごみ排出量の少ない世帯の利便性の向上等の成果が見込まれたため、引き続き事業を実施した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

平成28年度に超特小を導入し、「大」、「中」、「小」、「特小」、「超特小」の5種類とした指定収集袋を活用した、家庭系ごみ有料化事業の円滑かつ適正な運用を継続することにより、利便性の向上も図りながら引き続き、家庭系ごみの減量・資源化を推進する。

平成3年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	ごみ減量・資源化啓発事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	「ごみ分別ガイドブック」・「ごみ収集カレンダー」、小学校社会科副読本「きれいな高松に~くらしとごみ~」の作製・配布に加え、平成28年11月から、新たに、スマートフォン・タブレット端末利用者に向けての「ごみ分別アプリ」の配信を開始する等により、ごみの減量・リサイクルを推進するとともに、高松市リサイクル推進員の各校区への配置による地域ぐるみの主体的なリサイクルの推進に取り組む。		
3年度概要	ごみ分別ガイドブック・ごみ収集カレンダー・小学校社会科副読本の作製・配布に加え、ごみ分別アプリの配信等により、ごみの減量・リサイクルを推進するとともに、高松市リサイクル推進員の各校区への配置による地域ぐるみの主体的なリサイクルの推進に取り組む。 なお、ごみ収集カレンダーについて、広報たかまつの配布方法に併せ、見直しを行う。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	

【事業の目的】

対象(何を)	ごみを排出する市内の全家庭
意図(どのような状態にしたいか)	ごみ分別ガイドブックを配布することにより、各家庭が正しいごみの分別方法を理解し、資源物は資源物、有害ごみは有害ごみ、燃やせるごみは燃やせるごみなどのように正しく分別してごみを出してもらおう。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
ごみ分別ガイドブック配布数	冊	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000

【事業の成果】

成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
プラスチック容器包装ごみの再資源化割合	%	目標値	90	90	90	90	90
		実績値	91.4	91.3	87.1		
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							(達成度) 96.8%
プラスチック容器包装ごみの再資源化割合は、中期目標値・今年度目標値とともに、90パーセントとしている。なお、平成30年度の目標達成度は、96.8パーセントであった。							33点
成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
		目標値					
		実績値					
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	平成31年度(予算)
トータルコスト	[千円]	12,614	12,195	12,284	12,900
(事業費)	[千円]	3,585	3,470	3,588	4,204
(職員人件費)	[千円]	9,029	8,725	8,696	8,696

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

前年に引き続き、ごみ分別ガイドブック・ごみ収集カレンダー・小学校社会科副読本の作製・配布、リサイクル推進員等事業に加え、平成28年11月に開始した「ごみ分別アプリ」を更に周知することにより、ごみの減量・リサイクルのを推進した。
---

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

ごみ分別ガイドブック・ごみ収集カレンダー・小学校社会科副読本の作製・配布、リサイクル推進員等事業に加え、平成28年度から配信を開始したごみ分別アプリについて、ゴミ分別ガイドブック等の媒体にQRコードを印字したり転入者向けにチラシを配布するなどを行い、利用を拡大することで更なるごみの減量・リサイクルの推進に取り組んでいく。
---

平成3年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	
	事務事業	ごみ再資源化事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	環境への負荷の低減と限りある資源の有効利用による持続可能な「循環型社会」を形成していくために、ごみの発生抑制やリサイクルをすすめることが重要となり、一人ひとりがごみに対する意識を高め、ごみに責任を持つことが求められている。この事業は、家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみについて、再資源化を行うための中間処理を行い、プラスチック、色つきのびんについては、日本容器包装リサイクル協会に引渡し（処理にかかる経費の負担はなし）、缶・びん・ペットボトル、紙類など有価にて売払いで出来るものは、専門業者に売却している。
-------	--

3年度概要	家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみを、再資源化のための中間処理を行い、プラスチック、色つきのびんについては日本容器包装リサイクル協会に引渡し（処理にかかる経費の負担はなし）、缶・びん・ペットボトル、紙類など有価にて売払いできるものは専門業者に売却する事業を行う。
-------	--

重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型
--------	----------	---------

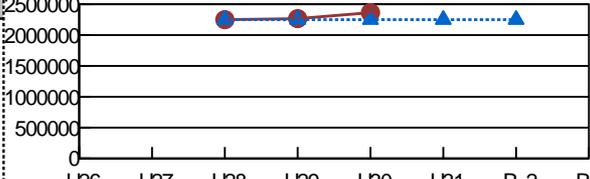
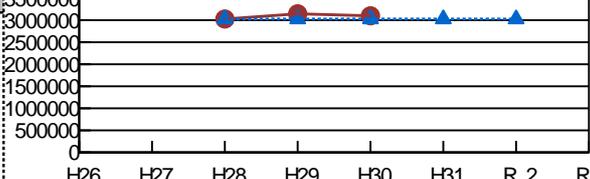
【事業の目的】

対象（何を）	家庭から出された資源ごみ
意図（どのような状態にしたいか）	家庭から分別して出された資源ごみを再資源化することにより、環境への負荷の低減と限りある資源の有効活用を推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
缶・びん・ペットボトル中間処理量	k g	2,599,230	2,477,470	2,629,000	2,600,000	2,600,000
プラスチック中間処理量	k g	3,311,360	3,410,320	3,558,470	3,300,000	3,300,000

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
缶・びん・ペットボトル資源化量	k g	目標値	2,250,000	2,250,000	2,250,000	2,250,000	2,250,000
		実績値	2,249,633	2,266,390	2,363,734		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 家庭ごみ中の資源化の推進による資源ごみ量の増加要因と、家庭ごみ全体の減量化の推進による資源ごみ量の減少要因から、缶・びん・ペットボトルの資源化量は現状数量で維持する。なお、平成30年度の目標達成度は、105.1パーセントであった。 	2500000	(目標達成度)					(達成度) 105.1% 35点
プラスチック資源化量	k g	目標値	3,026,000	3,026,000	3,026,000	3,026,000	3,026,000
		実績値	3,026,583	3,144,986	3,099,427		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 家庭ごみ中の資源化の推進による資源ごみ量の増加要因と、家庭ごみ全体の減量化の推進による資源ごみ量の減少要因から、プラスチック容器包装の資源化量は現状数量で維持する。なお、平成30年度の目標達成度は、102.4パーセントであった。 	3500000	(目標達成度)					(達成度) 102.4% 35点

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（決算）	平成31年度（予算）
トータルコスト	[円]	187,436	190,562	192,420	197,154
（事業費）	[円]	180,370	183,734	185,614	190,348
（職員人件費）	[円]	7,066	6,828	6,806	6,806

【評価】

評価ランク (A～D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

引き続き、家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみの中間処理を行い、再資源化を推進した。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

引き続き、家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみの中間処理を行い、再資源化を推進する。

平成30年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境業務課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-834-0389
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	小型家電等リサイクル推進事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	支所・出張所や家電販売店及び「不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦」などのイベントに回収ボックスを設置して、使用済小型家電21品目を回収する。また、南部・西部クリーンセンターの委託業者の協力を得て、ピックアップ回収を実施する。				
3年度概要	小型家電リサイクル事業の普及・啓発事業のため、チラシの作成及び配布を行う。				
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務有）		

【事業の目的】

対象（何を）	<ul style="list-style-type: none"> <li>不要になった携帯電話、デジタルカメラ、ゲーム機等の使用済小型家電21品目。</li> <li>家庭から出る破碎ごみから回収された使用済小型家電21品目。</li> </ul>
意図（どのような状態にしたいか）	使用済小型家電の回収を実施することにより、レアメタルを含む有用な金属のリサイクルを推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
住民説明会等の実施回数	回	14	15	16	17	16

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
年間回収量	トン	目標値	6	6	6	7	7
		実績値	2.1	2.9	4.2		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 回収量について、ボックス回収は前年度に比べ4パーセント程度減少したが、南部・西部クリーンセンターでのピックアップ回収量は前年度に比べ12.5パーセント程度増加し、平成30年度の回収量は約4.2トンとなった。			(達成度) 70.0% 24点				
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（決算）	平成31年度（予算）
トータルコスト	[円]	1,361	866	853	813
（事業費）	[円]	576	107	97	57
（職員人件費）	[円]	785	759	756	756

【評価】

評価ランク（A～D）	C	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

市内22か所に設置した回収ボックス等による回収や、南部クリーンセンター及び西部クリーンセンターで実施したピックアップ回収などにより、合計4,276キログラムの使用済み小型家電を回収したことにより、希少金属等の再資源化や埋立ごみの減量化に着実な効果があった。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

引き続き周知啓発を図り、一層の回収量増加に取り組むとともに、回収対象品目の拡大についても検討する。